

## 南坂 1 号墳・南坂遺跡発掘調査現地説明会資料

1984・12・1

南坂 1 号墳・南坂遺跡は、標高約 60 m 程の北西にのびる尾根上に立地しています。この尾根上には調査中の両遺跡のほかにも前方後墳、方墳、円墳などが築造されており、周辺部も含めて足守地域でも前半期古墳の集中する地区となっています。

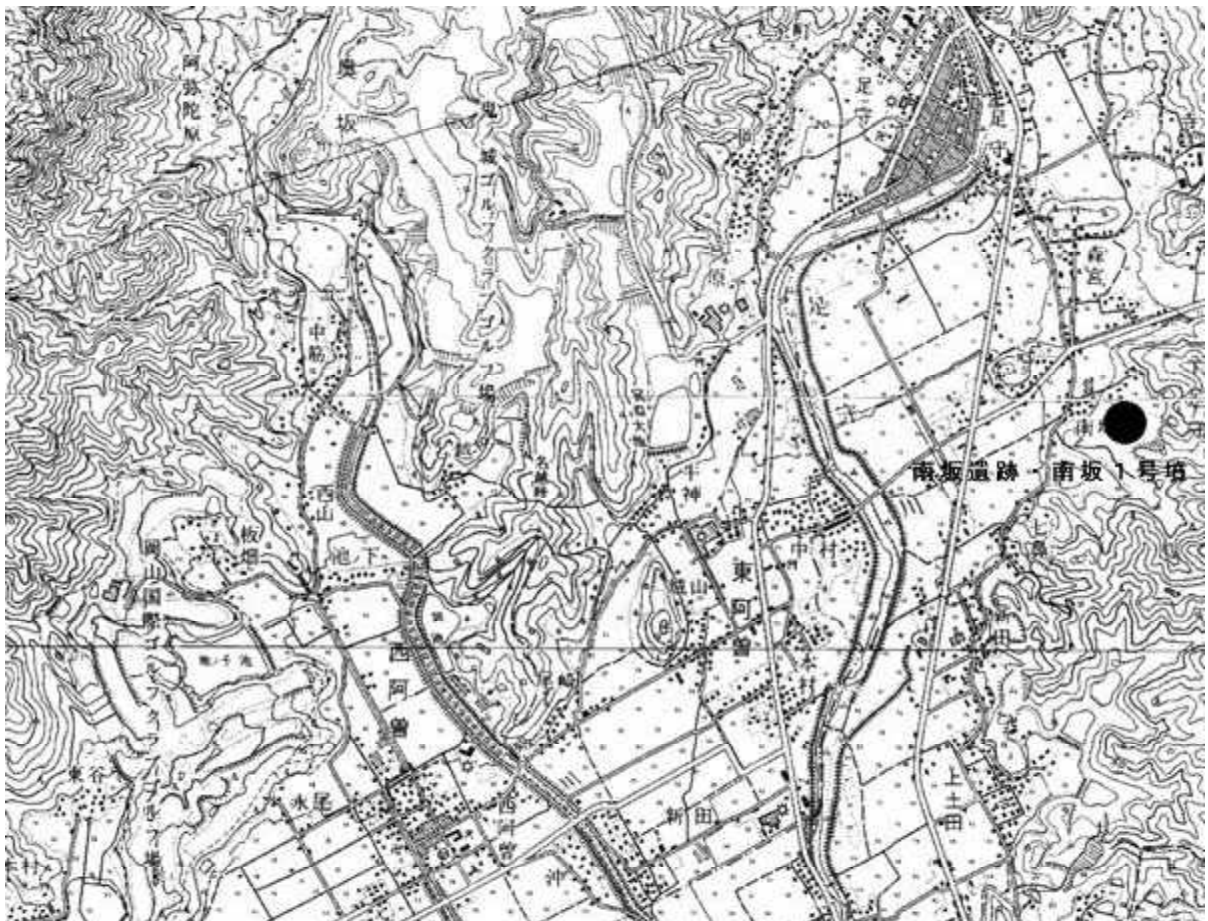
今回、この尾根が土取りにより消失するため、岡山市教育委員会が遺跡の記録保存を図り発掘調査を実施しました。なお、前方後墳らは保存されることになっています。

調査は、10月8日から始められ、現在に至るまで下記の内容が判明しています。

### 南坂 1 号墳

尾根の先端に築かれた、丸い形をした古墳です。埋葬は墳頂で二つ確認されましたが、本来はもっと埋葬があったと推定されます。また、墳頂や墳端部には埴輪が立てられていたようです。この古墳は構造や出土遺物から 5 世紀中頃に築造されたと考えられます。眼下に広がる平野を本貫とする小首長とその近親者を葬ったものでしょう。

なお、古墳の下には弥生時代の土壌も確認されました。



南坂 1 号墳・南坂遺跡の位置

墳丘 円墳（径約15m・高さ2.5m以上）

厳密には正円ではなく北西側の平野に向かってやや張り出し、また尾根上方の区画は不完全です。古墳の下部は、地山を削りだし、上部は厚さ50cm以上の盛土をして形を整えています。北西部は地山中の礫が露出し、あたかも葺き石のような状況を呈しています。

埋葬 第1主体

木棺を直に埋めた埋葬と推定されますが、棺上部は既に流失し墓穴の底付近だけがかろうじて残っていました。棺底と考えられる位置に直刀が副葬されていました。

第2主体

墓穴の中に粘土を敷いて、その上に木棺を置き、さらに棺の周囲にも粘土を配した構造です。棺は腐ってなくなっていました。粘土の広がりから、その外法が長さ約160cm、幅32cmの大きさと判断されます。棺内には遺体が頭を東に安置されていたと考えられますが、骨は溶けてなくなっていました。副葬品は、少なくとも棺内には置かれていなかったようです。第1主体によって一部が壊されていることからより古い埋葬です。

第3主体

墳丘の流失が激しいため墓穴や棺の明確な痕跡は確認されませんでした。よろい（短甲）の破片が発見されたので、このあたりにも埋葬があったと推定されます。よろいを副葬しているとすれば、この古墳の主人公の埋葬であった可能性があります。

副葬品（出土鉄器）

直刀（第1主体）

長さ約90cmの反りのない刃で、木製の鞘（さや）の一部がこびりついています。

三角板革綴短甲（よろい）の破片（第3主体？）

三角形の鉄板を革ひもでつないだ構造のものです。

ヤリガンナ・刀子（計4点）（第1～第2主体）

第1・2主体の下方斜面で発見されました。本来はどちらかの副葬品でしょう。ヤリガンナは突きカンナ、刀子は小刀のようなもので、いずれも小形の工具です。

埴輪 土管のような形をした円筒埴輪がほとんどですが、「笠（キヌガサ）」や「家？」などをかたどった形象埴輪もあります。いずれも壊れて本来の位置から流れ出した状態で見つかりましたが唯一、北西墳端付近では、その場で押しつぶれた状態の円筒埴輪が確認されました。円筒埴輪は横方向に板でこすって調整した痕が付いています。周辺の窖窯でやかれたものでしょう。

弥生時代の土壌 古墳の盛土や築造時の旧地表には、弥生土器片が散っていますが、古墳の北西部では壺等が埋まっている土壌が確認されました。古墳より200年くらい古い弥生時代後期中頃のものです。

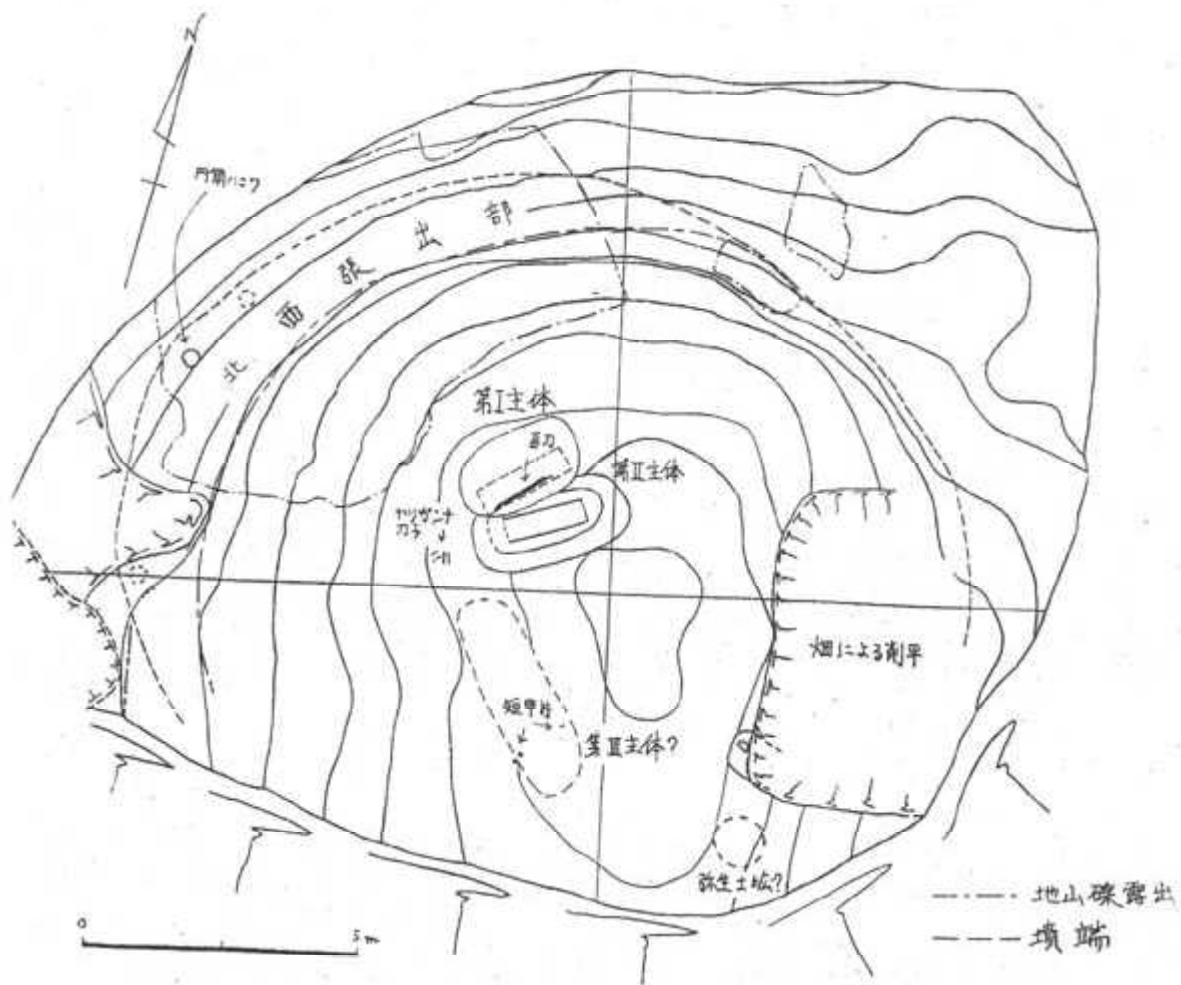
南坂遺跡

遺構	時代	出土遺物	備考
住居跡 1	弥生後期	弥生土器壺・・・・・・・・1 石器片・・・・・・・・若干	拡張・・・・・・・・1回 炭・焼土多し 円形直径 約 8 m
住居跡 2	弥生後期(?)	弥生土器片・・・・・・・・若干	炭・焼土多し
住居跡 3	?	なし	方形
土器溜まり	弥生後期	弥生土器・壺・甕	
土壌墓 1	5 C 末	須恵器坏身・・・・3 + 坏蓋・・・・4 + 高坏・・・・1 はそう・・・・1	長さ 1.5 m 幅 0.6 m 置き石
土壌墓 2	?	鉄器(刀子)・・・・・・・・1	長さ 1.8 m 幅 0.5 m 置き石
土壌墓 3	?	なし	長さ 2.0 m 幅 0.6 m 置き石
土壌墓 4	5 C 後半	須恵器甕・・・・・・・・1	長さ 2.8 m 幅 1.0 m 置き石
土壌墓 5	?		
石室墓	6 C 前半	水晶製勾玉・・・・・・・・1 切子玉・・・・・・・・2 碧玉製管玉・・・・・・・・6 ガラス小玉・・・・約 50 須恵器坏蓋・・・・・・・・1	長さ 1.1 m 幅 0.4 m 半壊
墓	中世?	土師質甕・・・・・・・・1 土師質小皿・・・・・・・・若干	甕の中に小皿が収められている。

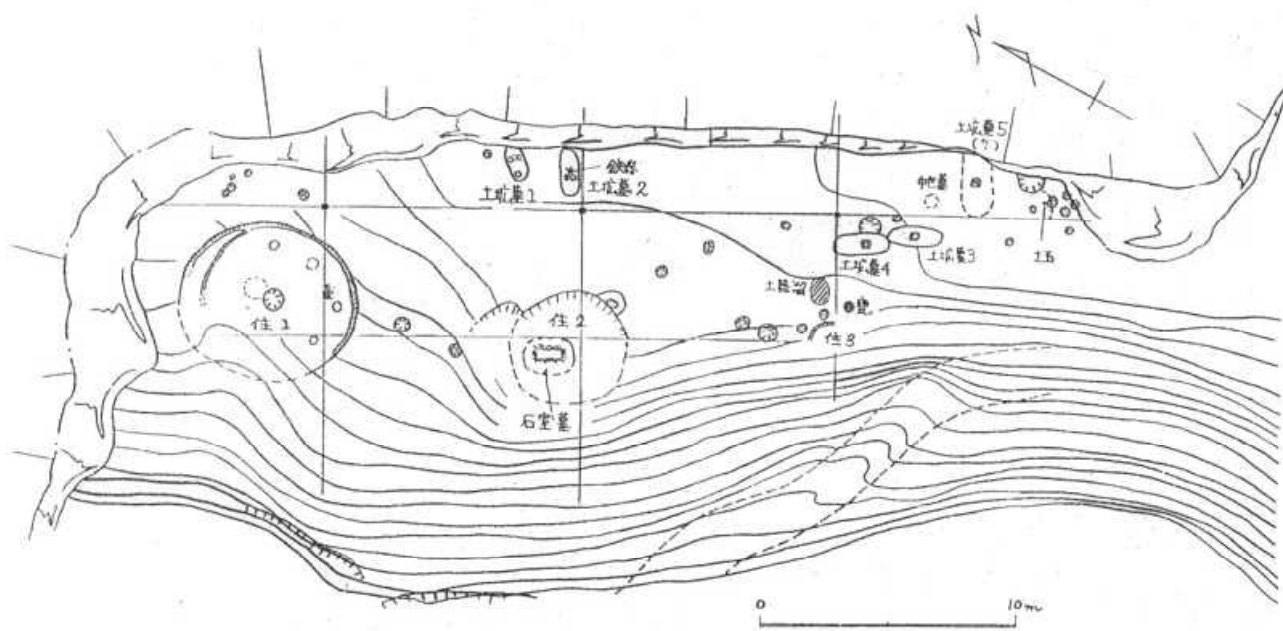
上記のほかに、柱穴などが検出されていますが、性格等はまだ判明していません。また、遺構に伴わない遺物として、弥生土器(中期後葉)甕・高坏、鉄釘、石鏃なども出土しています。

以上のように今回の発掘調査では、弥生時代中期後葉～後期にかけての集落の一端が明らかにされ、古墳時代中頃の古墳を含む墓地の存在も知られることになりました。

今後、足守地区の歴史を考えていく上で、今回の調査は貴重な資料を提供したといえます。



南坂1号墳模式图



南坂遺跡遺構配置略图